

# 2019年度予算案について

みらい  
川崎市議会  
連載No.114

市より議会に対して新年度予算(案)が示されました。これから約1か月半の審議を経て最終的に「2019年度予算」になります。

予算規模については、一般会計・特別会計・企業会計合わせて**約1兆4600億円**。市民生活に係が深い一般会計については、**約7591億円**で5年連続過去最大となっています。

予算案の段階なので詳細な政策調査はこれからですが、**財政規律**については注視が必要なポイントだと考えます。また**行財政改革(事業仕分け)**の視点が著しく欠けて



川崎市議会 議員 いわくま ちひろ  
昭和50年生まれ 43歳  
●英国国立ウールズ大学卒業 ロンドン大学大学院研究員 専門は国際政治学  
●国際派議員として、子どもから大人まで英語学とキャリア教育を教える。毎週日曜日は、イーヨーカード一溝口店前で市政報告を継続中(12年4ヶ月)

います。平易に表現すると、お金を使うことは得意ですが節約するところが少ないというように、人口増により個人市民税は増加しています。一方で、ふるさと納税の影響により本来、川崎市に収められるべき税金が地方に移り、来年度は49億円の減収となる見込みです。また、秋の消費増税に伴い法人市民税の減収も予測されています。結果として、減債基金※からの新規借り入れ1115億円を予定しており厳しい財政運営が続いていきます。(※減債基金とは、市債の返済を計画的に行うために積み立てる基金)

みよこ(100円)から220円)も予定されています。マスコミ等は、実質24年ぶりの改定という一辺倒の報道です。しかし、値上げについては、市バス事業

市営バスの運賃値上げ(210円から220円)も予定されています。マスコミ等は、実質24年ぶりの改定という一辺倒の報道です。しかし、値上げについては、市バス事業

市営バスの運賃値上げ(210円から220円)も予定されています。マスコミ等は、実質24年ぶりの改定という一辺倒の報道です。しかし、値上げについては、市バス事業

経営戦略プログラム(案)の一端であり、値上げだけでなく市営バスの経営状況が悪いために、今後一般会計から市バス会計へ年間約10億円の繰り入れも計画されています。市バス事業自体の身を切る改革も必要と考えますがプログラム内にはあまり見受けられません。以上のように、いまだ改善点の多い予算案ですが、成案になるまでに改善できることは改善し4月からの市民サービスに影響が出ないよう取り組んで参ります。

2019年度川崎市一般会計予算(案)  
(単位 百万円(%))

